

中学生・高校生向け



『AIに書けない文章を書く』

前田安正／著
筑摩書房 ¥946 (税込)

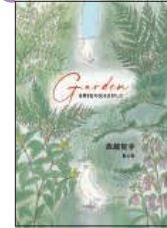
AIに書けない文章とは、書いた人の感情や経験から生まれる、その人独自のもの。新聞社の校閲を長年務めた著者が、技術の発達した現代において人間自ら文章を紡ぐ意味を問う。わかりやすく伝わりやすい文章を書く技術も身に付く一冊。



『思いがけず、朝子ちゃん』

高村有／作 セキヤよい／絵
童心社 ¥1,650 (税込)

朝子は人間関係が原因で会社を辞め、祖母の花屋を手伝うことになった。ある朝、店先で中学生の美月に水をかけてしまったのをきっかけに二人は話をするようになり…。朝子との出会いが、悩める5人の小中学生に希望を与えていく短編集。



『Garden』

森越智子／作 大野八生／絵
童心社 ¥1,980 (税込)

ぼくには子どもごころ、二つの名前があった。本当の名前「ひでかず」と、父親のいとこの前でだけ呼ばれる「しゅういち」だ。名前の秘密を追いかけるうち、父が語ることのなかった長崎の被爆体験と、ある真実が明らかになっていく。



『広告の探検にでかけよう！』

エリカ・ファイビー／文 イアン・ターナー／絵 三井雄一／日本語版監修 おおつかのりこ／訳
玉川大学出版部 ¥4,180 (税込)

広告には、見る人の目を商品に向けさせる工夫が施されている。繰り返しやおとり作戦などに惑わされず、自分の意志で欲しいものを選ぶには？ 広告の歴史や用語集もあり、これまで何気なく見ていた広告を見直すヒントが得られる。



『この世は生きる価値がある』

長谷川まりる／作
ポプラ社 ¥1,760 (税込)

ある「魂」が、死んだ中学生の天山の体に入り込む。はじめのうち「魂」は身体を通して体験する感情や感覚を楽しむが、次第に天山の抱えていた事情を知り、天山として生きることの不自由さを感じはじめる。



『正しく疑う』

池上彰／監修
Gakken ¥1,650 (税込)

パソコンやスマホが身近にある今、使い方を間違えると犯罪の被害者になるだけでなく、加害者になってしまうことも。メディアを「正しく疑う」力が大切だ。情報を受け取り発信する方法や生成AIとの付き合い方などを伝える。



『ツバメの親子はどこにいる』

榎崎茜／作 水谷有里／装画・挿絵
くもん出版 ¥1,650 (税込)

白杖を持つ母をからかわれ同級生とけんかした音晴に、兄の明照はその事を母に言うなど口止めする一。視覚障害のある両親と、そのもとに生まれた兄弟の人生を、4人それぞれの視点から描いた家族の物語。



『どうやって美術品を守る?』

ファビアン・マイヤー、ジビュル・ヴルフ／作 マルティナ・レイカム／絵 田中おかり／監訳 中村智子／訳
創元社 ¥4,950 (税込)

何百年も前の作品を今も鑑賞できるのは、専門家ははじめ、さまざまな人々が美術品を愛し、守っているから。肖像画を修復する物語を軸に、保存修復士という職業、またその技術をカラーイラストと写真で紹介する。

その他のおすすめの本

『学校に行かなかった僕が、あのころの自分に今なら言えること』
石井しこう／著 大和書房 ¥1,650 (税込)

『図解でわかる 14歳からの自分を助ける心理学』
社会応援ネットワーク／著 小関俊祐／監修 太田出版 ¥1,760 (税込)

『消えたモナ・リザ』
ニコラス・デイ／作 千葉茂樹／訳 小学館 ¥1,870 (税込)

『チャリを盗んで、夜明け』
黒川裕子／著 講談社 ¥1,760 (税込)

『聞こえない羽音』
舟崎泉美／作 尾崎智美／絵 小学館 ¥1,430 (税込)

『中三・ラブソディ』
花里真希／著 講談社 ¥1,650 (税込)

『人類の物語 世界はちがう人どうしてできている』
ユヴァル・ノア・ハラリ／著 西田美緒子／訳 リカル・ザプラナ・ルイス／絵 河出書房新社 ¥1,760 (税込)